

### 新学期、そして未来へ向かって ～夏休みの子どもたち～



園での補習授業

皆さん、こんにちは。日本では蒸し暑さが和らぎ、秋を迎えるころでしょうか。カンボジアでは雨季のため、毎日厚い雲に覆われ、涼しく過ごしやすい毎日です。

2か月間の長い夏休みはいよいよ後半に差し掛かり、最初は休みを楽しんでいた子どもたちも、今度は早く学校に行きたい!とってくるようになりました。

今回のDream通信では、夏休み中の補習授業と農作業について、そして新職員についての3つをお伝えします。

#### 補習授業

カンボジアの学校では7月末に学年が終わり、10月から新学年がスタートします。夏休みが明けると新学年になるため、この2か月間の休みはとても大切な期間です。

学校は休みですが、園では毎日補習授業を行っています。学年が上がれば勉強は難しくなります。学校の勉強に遅れることなく、より理解を深められるように、新しい学年の勉強を始め、新学期に備えています。

小学校低学年は午後2時から3時間、高学年と中学生は午後1時から4時間の補習授業を受け、また中学生は補習に加え学校で開かれている塾にも出かけていきます。

高校生は園での補習はありませんが、毎日塾へ通っています。塾のない時間や夜も、職員が行う英語や日本語の授業を受けたり学年ごとに自習を行ったり、と休む間はありません。

現在園で一番年長のポウ・ソペアックは10月に高校の卒業試験、そして11月に大学入学試験が控えています。ソペアックは何年も前から『日本語ガイド』になることを夢に、プノンペン大学の日本語学科を目指して毎日勉強に励んできました。入学試験に必要な日本語の勉強も続けています。

毎日コツコツと努力を続けることで、夢に一步一步近づくことができます。子どもたちがそれぞれに思い描く未来へ向かい進んでいくことができるように、勉強に打ち込んでもらいたいと思います。



夏休みも気を抜きません



集中して練習問題を解いています

## 農作業

夏休みの朝は、毎日農作業を行っています。草刈りや薪割り、落ち葉掃き、建物の掃除など、園の仕事を全員で分担して行っています。農作業を行うことで、毎日継続して努力すること、社会の中で生活していくことを学んで欲しいと思っています。

毎朝2時間、子どもたちは全身で汗をかきながら農作業に取り組んでいます。小さな子の集中力が途切れておしゃべりが多くなったり、手が止まってしまったりすると、大きい子が注意します。大きい子は小さい子の面倒を見ることを学び、小さい子は大きい子の背中を見て大きく育っていきます。

園は「ひとつの大きな家族」です。職員も子どもも協力しあって、住みよい園を作っています。園での暮らしは社会の中での暮らしとは少し違います。家にいれば父親や母親がしている仕事を子どもたちが見て、真似して覚えていきます。子どもたちが将来、そうしたハンデを背負うことなく、カンボジアの社会の中で立派に生きていくために、農作業の時間を使って、教えています。また、農作業では薪割りや草刈など、毎日行わなければならないことばかりです。毎日こつこつ努力することの大切さ、大変さを教えます。

子どもたちは将来、自ら生きていかなければなりません。誰かが助けてくれる、と思うのではなく、自分が誰かを助ける存在になってほしいと思います。そのためには、自ら生きる力が必要です。今からその力を身に付けて欲しいと願っています。

## 新職員

8月6日より、「夢追う子どもたちの家」で新たな職員、ムル・ソッルン先生が働き始めました。

ソッルン先生は今まで小学校の校長先生をしていました。定年退職しましたが、子どもが好きで、子どものためにできる仕事をまだまだ続けたいと、今回、副園長の紹介により園に来て働くことになりました。

学習指導では、現在は小学校2、3年生の補習授業を受け持ち教えています。農作業では率先して作業をし、経験、知識も豊富なため実際にやって見せながら子どもたちにも丁寧に教えてくれます。とても穏やかで優しく、子どもたちからも慕われています。

学校の先生としてだけでなく、自身の子どもたちも成人まで育てた経験を活かし、今後は園で、特に大きい男の子たちの相談相手や生活指導などで力になれるよう頑張りたいと思いを持ってくれています。

ソッルン先生とともに、今後も職員で力を合わせ、子どもたちの学習、生活を支えていきます。



広い園内の落ち葉を拾ってきれいにします



汗をかきながらの草刈り



ムル・ソッルン先生



小学生に勉強を教えています